きよさと

No.47
2009.6.1 発行
社会福祉法人 清郷会
協和厚生園
日吉厚生園
九十九荘
十倉厚生園
TEL. 0476 (93) 1535(代)

作品　九十九荘　渡辺　定　さん
題字　九十九荘　桶川正志　さん

目　次

特集『東金事件に思う』……2～3
十倉厚生園『選択行事』……4～5
協和厚生園『新型インフルエンザと闘えるか』…6～7
九十九荘『春夏秋冬』……8～9
日吉厚生園『地域交流行事』……10～11
ご寄付御礼・職員の異動など……12

清郷会のホームページアドレス　**http://www.kiyosatokai.or.jp**

ご意見・ご感想をお聞かせ下さい。

ホームページがリニューアル！

http://www.kiyosatokai.or.jp

ご寄付お礼

○日吉台小学校ＰＴＡ　様
○財団法人諸岡報恩会　様
○小倉　愷　様
○井上　英子　様
○成田空港クリスマスフェスティバル２００８実行委員会　様
○千葉県共同募金会　様
○イオン成田イエローシートキャンペーン　様
○イオン八街イエローシートキャンペーン　様

職員の異動について

新規採用者

・押野　修（協和厚生園）
・平山佐知子（協和厚生園）
・申　熙福（十倉厚生園）
・渡邉　昌代（十倉厚生園）
・岩舘　卓哉（十倉厚生園）
・清水加菜江（十倉厚生園）
・関口　智江（十倉厚生園）
・吉野　果紀（十倉厚生園）
・塚本　京子（九十九荘）
・中井　加奈（九十九荘）
・岡田　恵（九十九荘）
・蟹江まゆみ（九十九荘）

退職者

・渡部　聡（協和厚生園）
・浅田　正己（日吉厚生園）
・金杉　浩二（十倉厚生園）
・紺野由香里（十倉厚生園）

異動者

・富岡　定夫（協和→日吉）
・小林　勝美（十倉→協和）

あとがき

初めてわが子が誕生した。

パラリンピックで金メダルを獲得した選手が、その金メダルについて

「人生で4番目に嬉しい。子供が3人いるので…。」

と語っていた気持ちがよくわかる。とにかく幸せなのである。

子育てについてはまったくで、嫁さん頼りではあるが、俺なりに子供のことを思う。

そんな折、生まれて初めて「自分の家が持ちたい。」と思った。唯一、わが子に残せる財産のような気がしたのである。

注文住宅を夢見て雑誌を買い揃え、モデルルームに足を運び、設計を楽しむ。ローンをシュミレーションし、無理のない範囲の土地と家の価格をはじき出す。マイホームが近づいてきているような気がした、そんなある日に嫁が一言…

「子育てに適した環境ではない。」

確かに私がお金ばかりを考えて家を建てようと思っていた土地は、駅からは遠いし、バスの本数がとても少ない所。当たり前のことなのだが、駅に近い。バスの本数が多い。幼稚園や保育園が充実している。小・中学校へも苦のない徒歩圏内で、学童保育もしっかりしているような所は、それなりのお金がかかるのである。

不公平なようで公平な話。子育てについての価値観は人それぞれではあるが、一般的に子育てに適している所に家を構えようと思ったら、今の私のお給料では手が届かない。人の集まる場所にはそれなりの理由があって、人気に比して価格も上がる。

息子には悪いが、どうやら私には平坦で選択肢の多いレールを敷いてやることはできそうにない。自分で道を切り開いていってもらうしかないようである。

さて不況の最中、介護職に人が集まらず補助金を出すような話が新聞に載っていた。お給料が上がれば人は集まるだろうか。このご時世、今よりは集まるかも知れない。しかしながら住宅事情のようにはいかないだろう。住み心地も思っていたものと違うかも知れない。いずれにしても、この仕事に対する責任はお給料以上のものがあるような気がしている。

【特集】東金事件に思う

誰もが…

協和厚生園園長　田沼　貞美

昨年の九月二十一日、保育園児が遺体で見つかり、十二月六日、近くに住む容疑者が死体遺棄容疑で逮捕された。

この東金事件で、報道各社は発生直後から現場付近で執拗な取材を繰り広げ、逮捕されるとすでに容疑者を取材した映像や写真が各々のテレビ局で放映された。各局が午前・午後・夜のニュースで放送するだけでも大変な回数である。

その上、内容はどこの局も同じようなもので、容疑者を実名で報道し続け、頃合を見て障害があると報じた。どこにチャンネルを合わせても、同じようなスタイルの映像とコメントばかりで、この報道のやり方に二〇〇一年四月の『レッサーパンダ殺人事件』を思い出した。メディアの意図と姿勢が気にかかるところである。

『東金事件』も『レッサーパンダ事件』も特別支援学校卒業後の地域での生活・生きる難しさを改めて考えさせられた。仕事をしている時は誰かが声をかけてくれるから幸いである。仕事をするために通うのではなく、人と会うために通う。その喜び・意味の方が大きい。会いたい人が居なくなった時、人と関わる密度は薄くなり、会いたい人が居なくなった時、行きたい場所がなくなった時、行きたい場所がなくなった時、途切れ途切れになる。

そんな時に失敗・躓きが起こる。事件の前、この二人は会いたい人が居たのだろうか。繋がりのある人が居たのだろうか。他の人との繋がりのある人が居たのだろうか。繋がりの欠けた社会は事件を未然に防ぐことができない。秋葉原の事件もそうだった。繋がりを求めて声をかけても避けられてしまい、誰一人として「私がここに居る」ことを認めてくれない。不安を抱く孤独者となったのだろう。

『浅草レッサーパンダ事件の真相』を書いた北海道文化放送の記者は「服役中、あるいは出所後に社会が男に手を差し伸べていれば…。」と記した。

誰もが手を差し伸べて欲しいと願っている。

かけがえのない存在

東金市在住　協和厚生園支援員　並木かすみ

あなたは心が折れそうな時、支えてくれる人がいますか。

小学校一年生の娘が『人』という漢字を学校で習ってきた日…

「〝人〟という字はね、ヒトとヒトとが支え合ってできているんだよ。」

と嬉しそうに教えてくれました。

私たちは一人では生きていけません。誰からも相手にされず、誰からも認められず否定されてばかりではどうでしょうか。

人と触れ合う、認められる、繋がる、そういったことを実感することで、私たちは生きていけるのだと思います。

落ち込んでいる私に気付き声をかけ、話を聞いてくれる人が居るから、私は頑張れます。

同じ年頃の娘を持つ母親として、この事件にやり切れなさばかりを感じると同時に、すべての人がかけがえのない存在であると思いたい。娘にもそう教え、そう考えられるような人に育って欲しいと願うのです。

卒業後の適切なサポートとは…

―特別支援学校の役割と富里市自立支援協議会の取り組みについて―

千葉県立富里特別支援学校　特別支援教育コーディネーター
富里市地域自立支援協議会委員　多　古　裕　康

最近、心を痛める事件が続きます。学校関係者としても非常に残念な出来事です。

「これから障害者の地域生活は難しくなるのだろうか。」という不安や「障害者が事件を起こした。だから他の障害者も同じような事件を起こすかも知れない。」という偏見が地域の中で生まれる恐れを感じている方もいることでしょう。

しかし「障害者だから事件を起こした」のではなく「適切な支援（サポート）がなかった」から「十分なネットワークがなかった」からではないでしょうか。

本校は開校してから、４５０名程の卒業生を送り出しています。しかしながら、地域生活の面では在籍児童生徒を含め、学校として支援が必要なご家庭に十分な相談とサポートができているかについては課題の多いところです。卒業後のアフターケアの大切さも日々感じていますが、学校だけでは解決できない部分があるのは事実で、無力さを感じることも多々あります。

富里市の地域自立支援協議会は、全国的にもかなり先進的です。ただ協議会の取り組みについては、まだまだ十分に地域の方々に知られていません。しかし地道に関係者が連携をしながら、障害を持った方々への支援について、チームで知恵を出し合い、話し合いを重ね、一歩一歩、着実に支援の輪が広がっていることを感じています。

本校でも協議会のケース会議や日々の連絡調整を積み重ね、関係者の方々からご協力をいただきながら、児童生徒の本人支援や家族支援の充実に向けて取り組んでいます。学校関係者の1人としても、自立支援協議会の存在と意義を強く実感しています。

現在、本校は地域のセンター的機能としての役割を発揮し、在籍児童生徒への支援と地域支援（小・中学校への支援）に取り組んでいます。並行して卒業生への支援についても、学校として果たせる役割を十分に認識し、関係機関や関係者の方々と連携を密にしながら、支援にあたる責務があると考えています。私自身も、地域の方々とのつながりを大切にしながら、日々、スキルアップに努め、障害を持った方々への支援の充実に向けて精進していきたいと考えています。

わが子を守りたい

日吉厚生園利用者家族　片　岡　健　二

毎日のように新聞やテレビでは、幼い子供や老人、そしてハンディキャップを背負った人達が事件に巻き込まれたと報じられている。

共通していることは被害者が社会的弱者であるということ。

『国家の品格』の著者が言う「卑怯を憎む心」が薄れ、いつからか弱い者イジメがまかり通っている。

私のように社会的弱者を子に持つ親としては何をすべきなのだろうか。何ができるのだろうか。

現状、毎日の通園のために利用しているマイクロバスの送迎場所まで、一人で歩くには危険がないか、本人は道路を渡る時に安全確認を行っているか、人通りの少ない道はないか、その道に不審な車や人の情報はないかなど、それらを時々チェックし、危険と思われる場合には本人に話すとともに、厚生園にも連絡を入れることはできるだろう。

しかしながら、私一人の情報では少な過ぎる。

幸い私たちには同じ境遇の子を持つ家族会の仲間がいる。地域の自治会等にも積極的に参加すれば、さらに我が子の安全を守るための情報を手に入れることができ、自分の子供を知ってもらう機会にもなるだろう。

人と人との連携こそが幼い子供や障害を持った子など、社会的弱者を卑怯から守る小さく大きな防衛のための一歩ではないだろうか。

デイサービス行事紹介

デイサービスでは、日ごろの室内活動のほか、近距離での外出を中心に年に数回外出行事を行っています。外出の希望箇所のアンケート・リサーチや、参加不参加の選択も含め、利用者さんの体力的・経済的負担とならないよう配慮し行事の計画を立てています。具体的には「お花見外出」、「バーベキュー」、「選択行事」、「昼食外出」、「初詣外出」などです。全体での実施は難しいため、実施日を分けて内容および行事当日の園内活動の状況・利用者の安全面・充実した活動内容と支援の質など、利用者さんに対する最善の支援を行うための職員体制を十分に配慮し実施しています。近距離の外出ではありますが、利用者さん・ご家族の要望などを第一にしているので、好評を得て、大変喜ばれています。

選択行事・空港見学

選択行事・カラオケ店で♪

選択行事・九十九里の海岸へドライブ

伊豆・箱根へバスの旅

また旅行もこれまで毎年実施していますが、利用者さん・ご家族にあらかじめアンケートを行い、旅行先、予算、時期などを設定し、参加者を募り計画しています。昨年は伊豆・箱根方面へ一泊でバス旅行を実施し、参加利用者さん・ご家族・職員が楽しく交流を深めるとても良い機会となりました。

大切に使わせて頂きます。『 誠号 』

協和厚生園と十倉厚生園を長年利用されて、グループホームへ移行された、故鏑木誠さんの遺言に基づき、その執行者である藤崎要氏の計らいで、十倉厚生園に10人乗りのワゴン車が１台配備されました。車の名前を「誠号」とし、これから利用者の送迎・外出等に活用していきます。

天国にいる誠さんに「ありがとう」とお礼の想いを伝えたいと思います。

選択行事

十倉厚生園

誰にとってもお出かけは嬉しいもの。通所部・居住部では、年間を通して「選択行事」を設定しています。より利用者さんに楽しんでもらうことを目的としていますが、ユニークなのは、職員一人ひとりがさながら旅行会社のように企画を出し、利用者さんに選んでもらうというものです。シビアなもので、選んでもらえない企画はボツ（泣）。利用者さんの趣向も分かり、選択の幅が広がるだけではなく行事のマンネリ化も防ぎ、職員の自発性や発想性も養われ、まさしく一石五鳥！

日光一泊でさしつさされつ

1/15～20まで極寒の日本を飛び出し、常夏の島ハワイの旅に行ってきました。わからない英語を笑顔でごまかし、昼は観光、夜はショッピングの珍道中。エメラルドグリーンの海・白い砂浜・美味しい食事、どれもとても素晴らしく、忘れられない思い出が出来ました。（引率・福田支援員）

お弁当を持って頂上で食べるゾ!!

特等席でショー観覧♪

アンバサダホテルに泊りました。

鉄道博物館には鉄子さんもいたよ

早く食べたぁい！

その他にも・・・
アンパンマンミュージアム
宇宙や科学の体験ツアー・プール
神宮花火大会・熱気球・潮干狩り
デイキャンプ・ハイキング
ジョイポリス・アクアワールド大洗
富士急ハイランド温泉ツアー
など

残念ながら今年度もボツになってしまったものがありました。しかしそれは利用者さんが魅力を感じなかったり、分かりやすい提示が出来なかったからだと思っています。これからも、利用者さんに楽しさを追求し、更なる目玉企画をご提案させて頂きます。

協和厚生園

新型インフルエンザと闘えるか

昨年末に配布された『新型インフルエンザ危機管理マニュアル（仮称）』。

「目を通していろいろな意見を下さい。」と話があった。会議の度に鳥インフルエンザについての資料が配られる。

恐怖を感じた。

「新型インフルエンザと闘い勝てるのか。」

「協和厚生園の利用者さん達を守れるのだろうか。」

今回は、マニュアル作成者である三橋常務理事の話を聞き、同時に簡単ではあるが、そのマニュアルについての検証を行ってみることにした。

新たに購入された非常食の一部。
缶詰のものが多い。

新型インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）フェーズ③の時…清郷会の取り組み

清郷会常務理事　三　橋　輝　男

新型インフルエンザ危機管理マニュアル序文より…

「社会福祉法人清郷会は、成田空港に隣接している富里市に事業所を所有している。日本の玄関になる空港には、諸外国の様々な人々が乗降している。新型インフルエンザの特性からすると、対応措置は、どの地域よりも早く、時を逃さずに実施しなければならない。」

そして何よりも利用者・職員の生命保持を最優先目標に、感染から守るための行動を開始した。

「新型インフルエンザの流行はいつ起きてもおかしくない。」と専門家が予測する現在、鳥インフルエンザは日々進化し、高病原性鳥インフルエンザ（Ｈ５Ｎ１）の人への感染事例も数多く報告され、新聞等に載っている。

新型インフルエンザは20世紀に３回流行し、1918年～1920年に流行したスペインインフルエンザ（Ｈ１Ｎ１）では、当時の全人類（８～12億人）の50％以上が感染し、4000万人以上が死亡されたと言われている。日本でも39万人（当時の人口5500万人）が死亡し、1957年にはアジアインフルエンザ（Ｈ２Ｎ２）で、1968年には香港インフルエンザ（Ｈ３Ｎ３）で数多くの命が奪われている。

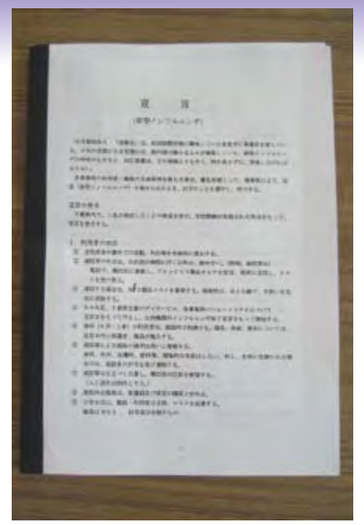
このように新型インフルエンザの流行は定期的に繰り返し起こる。

地球を一回りするのに時間のかからなくなった現代では、感染の広がりも速く、世界中の人たちが感染の被害を受ける危険性があると予測されている。

新型インフルエンザが発生してからでは遅い。

フェーズ③の今、当法人は、今すべきことに着手し、何をすべきかを明確にし、県のウィルス専門官に相談しながら危機管理マニュアルを準備した。

『新型インフルエンザ危機管理マニュアル』その内容を探る



・「千葉県内で１名が発症の情報を受け、学校閉鎖が実施された時点をもって、宣言を発令する。」

この時点での宣言の発令が遅いのか、早いのか、わからないが恐怖を感じる一瞬となるだろう。いずれにせよ、この時が来ないことを願うばかりである。

・「全利用者の園外での活動、外出等を全面的に禁止する。」

鳥インフルエンザの専門家達も『「外出を控える、人の集まる場所には行かない。」ことで感染の確率を低くすることができる。』と言っている。利用者さん達には辛いかも知れないが、命の安全を守るためには仕方ない。ちなみに通院での外出も極力控えることになり、電話やファックスでの受診となる。

・「保護者及び第三者の立ち入りを禁止する。」

外部からウィルスが持ち込まれる危険性が大いにある以上、これも致し方ない事だろう。食品や日用品は園外の所定の場所へ納品されるとの事。

・「Ｎ９５マスクを装着する。」

先日シュミレーションとして、一部の職員が装着して通常業務を行ったところ、「密閉性が高く、動いていると息苦しさを感じた。」との事。マスクの他、化学防護服や防護メガネも常備された。

・「非常食の常備」

食品関係の納品がストップする危険性も考えられるため、非常食の常備も欠かせない。エネルギー供給が麻痺した場合、野外炊飯で対応するよう明記されている。

・「介護を要する家族や乳幼児がいる職員以外は、施設内で生活し外出禁止。」

職員がウィルスの運び屋とならない保障はどこにもない。しかしながら改めて「命を守る大変な仕事だなあ。」と身が引き締まる。残念ながら私は園での軟禁生活が決定。自家用車の鍵は施設長に預ける。

・「園内でインフルエンザが発生した時は、ただちに『インフルエンザ施設内感染予防の手引き』に基づいて実施する。」

この仕事に就かなければ、一生お目にかかれなかった手引きかも知れない。おかげさまでインフルエンザにも詳しくなりました。

ノロウィルスと闘った日々

今冬、協和厚生園をノロウィルスの猛威が襲った。数年前に経験していたので、対応はわかっていたつもりであったが、なかなか勢いは衰えず、感染者は増えるばかり…。

集団生活と感染症の恐ろしさを思い知らされたところで、今度は新型インフルエンザである。

まず危機管理マニュアルが作成された。千葉県で、いや日本で感染者の報告があったら、このマニュアルを読み返して心と体を臨戦態勢に持ち込もう。

いやいやそれでは遅い。毎日の清掃・消毒がどれだけ大事か、ノロウィルスで痛い程、身に染みたではないか。ノロウィルスにはピューラックス消毒、インフルエンザにはアルコール消毒。利用者さんに嫌がれるくらい手洗いはしっかりしよう。温度や湿度のコントロールも大切だ。

幸いというか、私達には今冬の経験がある。感染はなかなか収まらなかったが、予防方法、対応方法への知識は増した。チームワーク良く対処もできる。命をも奪うウィルスを前にしてお気楽だが、新型インフルエンザとも闘えるような気がしている。

デイサービスセンター九十九荘

春

壁画「梅にうぐいす」

白組には負けないぞ!!

菜の花畑にて

日本寺にて

夏

作品「風鈴」

金メダル
とりました！

あたるかな？

壁画「ほたる」

「花火」

秋

壁画「夕日」

「もみじ」

おいしいぶどうで満足満足!!

焼イモがたのしみだわ。

作品「つばき」

楽しいクリスマス

作品「ツリー」

壁画「サンタクロース」

作品「タペストリー」

忘年会

九十九荘のど自慢大会…鐘は三つです…。

表紙の「きよさと」は私が書きました。

表紙の「たこ」は私が作りました。

作品「正月飾り」

大きくはばたけ!!　ひまわり会

自治会活動としてスタートした代表者会。平成14年度、その名を「ひまわり会」とし気持ちも新たに活動を開始しました。そして、平成15年度に向けて初めての役員選挙が行われ6名の方が選ばれました。それまでの活動といえば、主にレクや行事の内容を決める事や壁新聞の作成でした。徐々に進歩をし…昨年度の3月行事（慰労会）で念願の企画・運営を行いました。それまでは、職員が行ってきた会場となるホテルの方との打ち合わせは、役員の方達にとっても、大きな出来事であり、自信につながったと思います。

ひまわり会主催行事

「慰労会」（３月18日ラディソンホテル成田にて）

ホテルの方と打ち合わせ

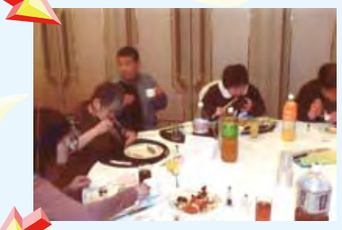
当日のメニュー等の相談をしました。初対面だったからか、役員さんは緊張しつつむき加減。でも、頑張って、日吉からの希望を伝えました。

期待通りのメニュー

「ご要望にできる限りお答えします！」とホテルの方の言葉通り豪華なメニューでした。

おいしかったよ！

メニューの中から好きな食べ物を自由に選んで食べられるバイキングを満喫しました。



ゲーム・余興で盛り上がる

この日の為に各班で出し物を練習しました。

役員さん、お疲れ様！

皆の代表として頑張った自治会役員さんに感謝の気持ちを込めて賞状が贈られました。

楽しいエコ生活

「エコ」のイメージといえば…節約・地球に優しいなどが思い浮かぶ。少しずつではあるが日吉厚生園でも「エコ」活動に取り組んでいる。当たり前の事ではあるが、節水・節電…心がけ次第で今まで気付かなかった事にも目が向き、いつのまにか利用者さんも自然と取り組んでいる姿が見られる。

作業では、牛乳パックを使った紙漉き（まだまだ試作段階。悪戦苦闘中！）広告を使ったブーツキーパー。お弁当のフタから出来るキラキラ光るペンダント。空き缶・ペットボトルつぶしなど。どの作業も利用者さんが楽しんで取り組んでいる。

日吉厚生園

走って・踊って・笑って・大満足 ～地域交流行事～

地域で生活をする。その為には、地域の方達との交流は必要不可欠です。

昨年の秋、富里市立日吉台小学校四年生との交流会が初めて行われました。果たして、小学生達は利用者の方達を受け入れる事が出来るのだろうか？「怖い」「帰りたい」と思ってしまったら…利用者の方達と一緒に楽しんで欲しい…そんな不安と期待の中で交流会は行われました。

力を合わせた大玉転がし

小学生の声

・大玉ころがしは、二人でいっしょにやったのでとても楽しかったです。

・いろいろな人とふれあえてうれしかったです。また、みなさんとふれあってあそびたいです。

・みなさんが元気なのでパワーをもらうことができました。

楽しかった交流活動

日吉台小学校教諭　鈴木　祐輔

「がんばれ！」「やったー！」元気な声が緑一面の芝生に響き渡りました。

本年度から日吉台小学校と日吉厚生園の交流が始まりました。交流当日は、暑いくらいの日差しでした。日吉厚生園まで子どもたちと歩いて行きました。歩いている時から、子どもから「ちょっと緊張してきたよ。」「楽しみだ。」など様々な声が聞えてきました。初対面の瞬間は、緊張の面持ちで始まりました。

始めに、校長先生と園長先生のお話を聞き、ラジオ体操をしました。緑いっぱいの芝生の上に大きく広がり、日吉厚生園の方々とともに元気いっぱい体操しました。

次に、大玉転がしです。チームに分かれ、一緒に元気よく大玉をともに転がし、応援し合いました。最後に、フォークダンスをして、楽しく終わりました。

子どもたちは本当に楽しそうに活動していました。多くの児童から「交流したい。」「今度はいつ交流があるんですか。」などの声が聞えてきました。

これからも厚生園の方々と交流していきたいと思います。